

## 第六期長期計画の策定について

総合的かつ計画的な市政運営を推進するため、市民参加・議員参加・職員参加を中心とした武蔵野市方式と呼ばれるこれまでの策定方式を継承し、以下のとおり第六期長期計画の策定を進めるものとする。

### 1 基本的な考え方

- ・平成 32 年度（2020 年度）を初年度とする計画期間 10 年の計画とし、前半 5 年間を実行計画、後半 5 年間を展望計画とする。
- ・計画期間は 10 年であるが、長期的な視野に立ち、20～30 年先を見通した計画とする。
- ・各分野において策定された個別計画（策定予定の個別計画を含む）との整合性を図りながら策定する。また、個別計画との関係を整理し、市全体の計画体系を明確にする。
- ・これまでと同様、長期計画は全施策を網羅したものではなく、分野を超えた総合的な視点により策定を行い、実施すべき政策・施策の優先度を明確にした計画とする。
- ・策定方法は、第一期基本構想・長期計画の策定以来の本市の長所である「武蔵野市方式」を継承しつつ、多様で広範な市民参加手法を取り入れる。

### 2 策定方法

#### (1) 市民参加

##### ① 策定委員会

- ・市民、市議会議員、職員との意見交換を通じて総合的に政策の調整を行い、計画案を作成し市長に答申する。
- ・学識経験者等の市民 9 名（うち 2 名は長期計画市民会議委員から選出）と副市長 2 名の計 11 名により構成する。（別添資料 1 のとおり）

##### ② 市民会議等

市民間の討議を重視し、多様で広範な市民参加の機会を設ける。

#### a) 長期計画市民会議 【充実】

- ・10 名の公募委員を中心に、情報提供や討議の補助を担う公募委員以外の市民も参加する。
- ・市の将来像等について 4～5 回程度の討議を行い、報告書を作成する。討議形式は主にグループ討議とする。

#### b) 無作為抽出ワークショップ 【充実】

- ・無作為抽出の 1,000 名程度の市民に参加を案内し、応諾いただいた市民により実施する。
- ・新たに市民ファシリテーターを取り入れ、企画・運営を市民とともに取り組む。
- ・実施時期等 第 1 回（平成 30 年 6 月）：武蔵野市の将来像について（仮題）  
第 2 回（平成 31 年 2 月頃）：討議要綱について

#### c) 中高生向けワークショップ 【新規】

「中高生世代広場」と連携した若者世代向けのワークショップを連続学習型で実施する。

**d) 地域ワークショップ 【新規】**

- ・ 計画策定後の市・市民の協働による施策推進に向けて、主として地域で中核的に活動を担っている市民の参加によるワークショップを実施する。
- ・ 実施時期等 平成 31 年 6 月頃：計画案について

**e) 関係団体意見交換会（策定委員会主催）**

討議要綱公表時に、策定委員会と関係団体との対話形式の意見交換を行う。

**f) 圏域別市民意見交換会（策定委員会主催）**

討議要綱公表時及び計画案公表時に、策定委員会と市民との対話形式の意見交換を 3 駅圏ごとの会場で行う。

**g) パブリックコメント**

討議要綱公表時及び計画案公表時にパブリックコメントを実施する。

**h) 市民意識調査等**

市民意識調査、市政アンケート等の各種調査等における市民意見を参考にする。

**(2) 議員参加**

「討議要綱」「計画案」について策定委員会と市議会議員が意見交換を行う場を、議員参加として実施する。

**(3) 職員参加**

- ・ 長期計画に関する説明会やワークショップ等の討議の機会を設ける。
- ・ 職員個人の意見提出や策定委員会との意見交換等、主体的な参加を促す。

**3 策定スケジュール（別添資料 2 のとおり）**

**4 その他**

- ・ 策定方法、策定スケジュールの詳細については、策定委員会との協議の上決定するものとする。